

(様式3)

| | | | | | |
|----|---|------|----|-----|--------------|
| 校種 | 小・ <input checked="" type="radio"/> どちらかに○ | 学校番号 | 14 | 学校名 | 宇都宮市立 国本中 学校 |
|----|---|------|----|-----|--------------|

令和4年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ 本人または保護者からの訴えで「4件」、のいじめがあった。今現在は解消している。
(いじめの内容は、主に冷やかし、からかい、悪口によるいじめ)
- ・ 不登校・別室登校生徒は、新2年「6名」、新3年は「16名」と昨年度から少し増えてしまった。人間関係をつくれないう生徒や情緒的な課題をもつ生徒がほとんどである。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「先生は、自分のよいところやがんばったことを認めてくれる」という質問の肯定的な回答をした生徒の割合は、新2年生96.2%で宇都宮市の平均を6.9%上回っていた。新3年生の肯定割合は88.9%で、宇都宮市の平均を1.0%下回っていた。
- ・ 「自分の携帯電話やスマートフォンを持っていますか」という質問に「持っている」と回答をした生徒の割合は、新2年生は63.6%で宇都宮市の平均を6%下回っていた。新3年生は87.2%で、宇都宮市の平均を11.4%上回っていた。所有率が非常に高い。
更に、平日の1日当たりの使用時間（電話やメール、SNSやインターネットのサイトを見るなど）の質問では、2時間以上が新2年生では26.8%、新3年生は31.7%と、どちらの学年も宇都宮市の平均から5%以上上回っている。
- ・ 「自分や身の回りの方々の安全に気を配り、安全に行動している」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、新2年生97.0%で宇都宮市の平均を1.3%下回っていた。新3年生の肯定割合は97.4%で、宇都宮市の平均を0.7%下回っていた。

(3) 学校生活の状況から

- ・ 元気よくあいさつしていると思っている生徒は多いが、教員・保護者はあまりそう思っていない。ここの差が課題。自己分析が甘い（うつのみやマネジメントアンケートの結果から）
- ・ 純朴でまじめな生徒が多いが、主体性については、伸びる余地が多い。
- ・ 問題行動は比較的少ないが、規範意識が低く判断力に欠ける生徒も見受けられる。また、交通社会の一員としての配慮に欠けるなどの、マナー不足の言動が見受けられる。地域に貢献できる学校を目指し、マナーの育成に努める。

2 今年度の重点目標

◎「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」

- 自分のよさに気づき、自信を持たせる指導の強化
- 活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる指導の強化
- 自分の力でやり遂げる体験や場の強化
- 生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導の強化
- 互いに認め合う集団づくりの強化

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 心の教育の徹底

- ★ 思いやり・助け合い精神の育成 SGEやSSTを取り入れた指導の工夫
(SGE：構成的グループエンカウンター SST：ソーシャルスキルトレーニング)

(2) 基本的な生活行動様式の徹底

- 自らすすんで気持ちのよいあいさつのできる生徒の育成
- 時間を守り、けじめある行動のとれる節操ある生徒の育成
- ★ 正しい判断のもと、自分の良さを発揮できる生徒の育成

(3) 共通理解と同一歩調による指導の強化

- 生徒行動状況の全職員への周知
- 生徒指導委員会の機能的運営と指導体制づくり
- 生徒心得の実践と徹底

(4) 日常の観察や教育相談を通しての生徒理解の深化

- 相談活動の実施と強化
- Q-U検査を活用した学びに向かう集団づくりの推進

(5) いじめの解消と予防的指導

- 計画的で継続的な観察、調査等による交友関係の把握と生徒理解の充実
- 孤立しがちな生徒への指導援助
- いじめの早期発見と迅速な対応
- 解消後の継続的観察と事後指導の充実

(6) 清掃活動の徹底

- ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意義の深化
- ・ 清掃分担明確化と協力的態度の育成
- ・ 清掃に意欲的に取り組む態度の育成
- ・ 校内美化活動の推進

(7) SC及び教育関係機関との連携を密にした教育相談体制の強化

- 生徒指導諸問題の情報交換と連携強化
- ホームページでの生徒のよさや情報の発信（通年）
- 情報の発信，地域人材の活用（通年）
- 地区巡回指導活動（通年）
- 情報交換や授業参観の場の設定（前期一回・後期一回）
- 児童生徒指導強化連絡会における共通のテーマの実践（通年）
- 学校園掲示板を活用した情報交換（通年）
- 情報の発信，地域人材の活用（通年）

(8) 教師の自己啓発と指導体制の確立

教師が人間として、また、社会人として常に生徒の模範であることを自覚し、自己啓発をしながら協力体制を確立する。

- 生徒を納得させる指導，信頼される言動の実践

